

【会員寄稿】

西谷源展教授 退任に寄せて

西谷教授退任にあたりお贈りする言葉

平川 益三(54回生)

いよいよ西谷先生が退任される事となりました。思い起こせば三十数年前、京都医療技術専門学校時代からお世話になりっぱなしでした。私は山陰本線殿田駅(現在駅名が変わって日吉駅)から学校が在った島津三条工場近くの太子道まで通っていました。当時は、円町駅は無く花園駅から学校まで歩く通学であり、いつからか先生にそのルートを教わり朝は一緒に、帰りはたまに、そして飲みにも連れて行って貰いました。朝はくねくねと民家の間の細い路地を通り抜け、取りとめのない話や授業の話、いろんなことを話しながら三年間、西谷先生と通いました。朝の課外授業の様でもあったと思います。



そして卒業就職の時、京都第二日赤を受験しましたが年齢がいつているということで不採用と成り、空きのできた京都第一日赤に就職しました。その時、府立医大で実習中、見回りに来られた先生と当時府立医大の副技師長をされていた遠山先生御両人に慰めて貰って、京都第一日赤で頑張る様にと激励されたことを覚えています。そして就職して二年後に、当時は山田先生に仲人をして貰うのがステータスの様な風潮がありましたが、私は西谷先生にお願いし馬堀のご自宅にかみさんとなるべき人と御挨拶に行きました。当時お二人のお子さんは、五、三歳ぐらいであったと思います。先生御夫婦は仲人が初めてということでした。しかし快く引き受けて頂きました。でも結婚式のひな壇では先生と私は酒を飲みすぎ、後で先生の奥様とうちのかみさんに怒られました。その後、今に至るまで、お歳暮のやり取りは続いています。このお歳暮、実はまた先生にうちの子が何かお世話になることもあるかも、と言う腹がありました。息子は、中学校から私学のエスカレーター校に入り卒業しましたが、気に入った就職口が無いということで、案の定、京都医療科学大学に入学しました。私には何も相談せずです。私が技師長に就任した時のことでした。今では親子二代にわたって西谷先生にお世話いただく事となりました。

西谷先生の奥様とは、平成24年5月の福岡での学友会総会で久々にお会いできました。それと言うのも、先生に学友会の選挙管理委員長を頼まれ、先生の奥様も一緒に行かれるとのことで「あんたも奥さん連れて来て、九州旅行したらいいやん」と口説かれてのことでした。

技師長職に就いてからは、病院の人材確保にご協力いただきました。就職試験を受けるには、先生の内部審査を通らねばならない様で、学生たちにはなかなかの関門であったそうです。

長年に亘り西谷先生には、公私共々お世話になりました。心から御礼申し上げます。そして、西谷教授、長年の責務御苦労さまでした。

京都医療科学大学 教授 西谷源展先生へ

山根 稔教(61回生)

私は先生に今までの人生の中で3回の機会にご指導いただきました。

始めは何と言っても学生時代で、京都医療技術専門学校でのことです。当時、学舎は島津製作所三条工場の横にあり、私は(当時 JR 円町駅がなかったので)JR 花園駅から徒歩で学校まで向かっていました。そこで同じように前の方を歩いておられる先生を時々お見かけして一緒に学校へ行ったことを覚えています。学生時代、教

わっていた教科は放射線管理学、放射線写真学など色々ありました。なぜだか良く判りませんが、今でも「ブリストー現象、チオ硫酸ナトリウム、潜像退行現象」といった単語が鮮明に浮かんできます。また、実験レポートでは、書き直し！と言われて何回も書き直したことが思い出されます。1回生から3回生まで3年間、基礎科目から国家試験対策までしっかりと教えていただきました。どれも懐かしい思い出です。

2回目は、私が30歳になった頃ですが、第1種放射線取扱主任者を目指して勉強している時でした。いきなり主任者試験を受けようとしたのですが、なんせ勉強はあまり好きでなかったため良く判らないことばかりで困っていました。そんな時、先生に相談すると「学校で学生向けに講習会も開催しているし、判らないところがあれば聞きにおいでよ」と言っていたので、先生を頼って学校を訪ねました。放射線管理や法令など、いろいろと判り易く丁寧に教えていただきました。また、合格発表の時には、どこから聞くよりも早く知らせていただき「合格してたよ、おめでとう」と言っていました。あの時の喜びは忘れられません。



3回目は私が京都府放射線技師会の役員をするようになった時から現在までです。技師会では放射線管理や機器管理のことを担当することになり、先生にはいつも無理を言って漏洩線量測定の実習や、被ばく線量測定、線量計の校正など、幾度となく講師をお願いしました。どんなお願いをしても、何時も快く引き受けてくださって感謝しています。東北の震災の時には、放射線のサーベイや測定について理論的なことから実務まで教えていただきました。



先生はいつも笑顔で気さくにお話してくださいます。また話題も豊富で世間話のなかで、私の知らないいろいろな興味深いことを話してくださいます。先生から多くのことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。そして、今後ともよろしくお祈りします。

西谷先生に贈る言葉

久保田 裕一(65回生)

西谷先生、定年退任おめでとうございます。長い教員生活お疲れ様でした。専門学校から短期大学、大学へと、度重なる移行に立ち会われ、さぞかしご苦労も多かったことと思います。

私は先生に専門学校生の最終学年としてお世話になりました。当時は園部の地に学校が移転した直後であり、真新しい校舎がぼつんと立っている状態でした。そんな園部ののどかな山間で過ごした3年間をとっても懐かしく感じます。不真面目な学生だった私は、夏は実験日に学校を抜け出して日本海へ海水浴と、よくさぼっていました。もちろん先生方はご存知だったのでしょう。西谷先生にレポートを受け取ってもらうことは至難だったことを覚えています。丸写しのレポートを提出しては何度も突っ返され、「お前のレポートはこの窓から飛ばしたらよく飛ぶやろうな」と、文字数の少ないペラペラのレポートを手にも2階の教員室で叱られたこともありました。

こんなこと書いて良いのか心配ですが、もう20年も昔の話です。時効ですよ。当時の我々下宿組は、本当に貧乏学生だったと思います。昼ご飯は学校のカップヌードルばかりを食べていたように思います。そんな貧乏学生が集まっていた「アパートみけし」のみんなを気にかけてか、学校でのBBQ大会の



園部の校舎 増築前

翌日には先生から声をかけていただき、肉を持ち帰って下宿で焼き肉大会をしていました。

卒業してからは京都府放射線技師会でも色々とお世話になったり、学位の件で学校へ相談に伺ったりもしました。学生の時の印象と違って、先生は怖い、口うるさいから、優しい紳士という印象に変わりました。『年齢とともに穏やかになったのかな?』なんてことは決して思っていない。『意外と髪の毛が残っているなあ。』なんてことはましてや決して思っていない。

多くの後輩を診療放射線技師に導いてくださった先生。学校を離れられても我々の先生です。これからも我々を引っ張り、ご指導くださいますようお願いいたします。長い間お疲れ様でした。そして、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

西谷源展教授送別の辞

布施 麻希子(短2回生)

学友だより210号で「西谷源展先生 退任記念講演・祝賀会のご案内」の予告を目にしました。学校に行けばいつも西谷先生がいるという安心感がまだ残ったままでいたため、「西谷先生が退任?!」という驚きと同時に戸惑いを感じました。私は関東にいるため、東京や横浜で開催される学会、研究会や会議出張の際などで、卒業後も連絡を取り合いお会いしていますが、入学以来何も変わらないご様子(風貌?)と、44年間という教育、そして研究期間を感じさせないパワーに驚くばかりでした。

私が短大の2回生として入学したときの西谷先生の教員室は、藤本先生と大釜先生の3人という、いつも賑やかな教員室でした。この時の教員室は玄関の真上にあり、階段を上がるとその明るさに吸い込まれるように、質問等は全くないにもかかわらず、いつも遊びに行っていました。山田先生や向井先生など他の先生方もこの部屋でよく談笑されていました。西谷先生のお人柄が窺える光景でした。

在学中の西谷先生からの呼び名は「まき・まこ〜」もしくは「あんたら〜」でした。「まこ」とは同じ2回生の宮元真子さんです。京都での学生生活にも慣れたころ、「まき・まこ」で学友会のお仕事をさせていただくことになりました。学友会の仕事とは、学友だよりを封筒に入れ、配送する地域ごとに仕分けをするといった内容でした。配送する地区をまとめることや、京都市内などは直接届けることで送料を安く抑えるなど、いかに予算を抑えるかという努力をしていました。このお手伝いのご褒美が格別で、美味しいお酒とお食事をお腹がいっぱいになるまでご馳走していただいたことは、貧乏な学生生活を送っていた私たちには今でも忘れられない思い出となっています。京都市内の配送は、西谷先生の自家用車をお借りしていました。免許は取り立て、しかも方向感覚ゼロの私たちの運転に、足を突っ張りながらも助手席で道案内をするという、スリル満点の配送業務にお付き合いいただいております。この時には学業以外に、京都市内の地理や歴史なども教えていただきました。

卒業間際になり、「まこ」と卒業旅行の話をしていましたが、予算などから二人で頭を悩ませていたところ、西谷先生の自家用車を貸していただくことになりました。後から判ったことですが、京都市内を配送したのはこの時のことも見越してだった、とのことでした。「育てる」という大切なご師事をいただき、感謝してもしつくせないことばかりです。

昭和45年から本年3月までの44年間は、京都医療科学大学での講義のみならず、学会や研究会そして多くの論文や著書、また同窓会の出席など、目の回るような忙しさだったことと存じます。またこのような激務のなかでも、常に笑顔を絶やさず私たち卒業生をもご指導くださる姿勢は、教授として尊敬の念を覚えるとともに人間として見習うべきことばかりです。

このたび、京都医療科学大学をご退任されたことは、非常に寂しく残念ではありますが、今後のご健康とご多幸を祈念いたしまして、送別の辞とさせていただきます。

以上